

**令和2年度  
事務事業評価報告書**

**令和3年8月**

**文教民生常任委員会**

# 文教民生常任委員会 事務事業評価

## 評価対象事業「野外活動施設維持管理事業（キャンプ場）」

### 1 事業の目的

青少年の健全育成のために整備された野外活動施設の維持管理  
所管は教育委員会 青少年センター

### 2 計画の位置付け

第2次西脇市総合計画 基本構想・前期基本計画

第1章 未来を拓く次世代が育まれるまち

政 策 教育を支える環境を整える

施 策 家庭や地域と連携します

### 3 調査の目的

毎年、利用者は微増しているものの、本来の目的である青少年の健全育成の施設としての利用はないのが現状である。市の事業として適切か否か現地視察をして協議する。

### 4 対象となる野外活動施設（キャンプ場）

- (1) 県民広場キャンプ場・・・鹿野町
- (2) 奥山キャンプ場・・・富吉上町
- (3) 武嶋キャンプ場・・・大木町
- (4) 木谷山キャンプ場・・・出会町

### 5 調査内容

#### (1) 利用状況

担当課に4施設の利用件数、利用者数（おとな・子ども別）、市内利用者、市外利用者等の分かる資料請求

<委員会で協議>

市内のキャンプ場は4カ所とも利用件数、利用者数は僅かずつではあるが増えている。内訳は大人の利用は増えているが子どもの利用は減少している。また、市内利用者 385人に対し市外利用者は 4,490人と市外からの利用者が多く（令和2年4月～令和3年3

月末の利用状況)、市民のための施設にはなっていないとも言えるが、西脇市民も他市のキャンプ場を利用していることから「お互いさま」と言える。(市民利用率: 7.9%)

## (2) 市内キャンプ場視察

令和2年7月17日(金)に下記の4施設を視察

<委員会で協議>

キャンプ場の設備

	電 気	上 水 道	水洗トイレ	くみ取りトイレ	東 屋	炊 事 棟
県民広場キャンプ場		○		○		○
奥山キャンプ場				○		
武嶋キャンプ場				○		
木谷山キャンプ場	○	○	○		○	○

- ・ 県民広場キャンプ場 ・ ・ 一日一組の利用に限定されている。そのため他と比べると利用件数、利用者数は少ないが年間通じて利用されているので県民広場キャンプ場のファンがあるように感じる。ゴールデンバレーゴルフ場に隣接し、池があり、景観は良い。
- ・ 奥山キャンプ場 ・ ・ 設備はトイレ(くみ取り式)があるだけだが年々利用件数は増えてきている、「おひとり様キャンプ」のブームが要因とも思われる。
- ・ 武嶋キャンプ場 ・ ・ キャンプ場が広く、それぞれのテントが独立して張れる。昨今流行のゲームに使用されるBB弾が散乱している点が懸念される。
- ・ 木谷山キャンプ場 ・ ・ 設備(電気・上水道・東屋・炊事場・水洗トイレ)が充実している。4つのキャンプ場の中では一番利用が多く環境が良い。

## (3) 予算

野外活動施設維持管理事業予算

R2年度予算 1,371,000円

    需要費 105,000円 (消耗品費、光熱水費、修繕費)

    委託料 276,000円 (キャンプ場整備委託料)

    工事費 990,000円 (奥山キャンプ場東屋解体費)

R3年度予算 381,000円

    需要費 105,000円 (消耗品費、光熱水費、修繕費)

    委託料 276,000円 (キャンプ場整備委託料)

<委員会で協議>

令和2年度は奥山キャンプ場東屋解体工事費が990,000円計上されたが、例年、

381,000円の予算である。そのうち委託料が 276,000円で4カ所のキャンプ場の整備を委託している。里山の管理や整備にもなり予算は適正である。

#### (4) 課題

A 今後も、当初の目的である青少年の健全育成の施設として維持する

B 目的の変更や有料にする等 現状に合った施設にする

C 観光とリンクさせるなどして利用者を増やす工夫をする

<委員会で協議>

Aについての意見

- ・ 青少年育成の野外活動の場とするのなら4カ所とも残したらよい。
- ・ 昔は、子ども会やボーイスカウトが利用していたが、今はその活動がほとんどない。
- ・ 目的のひとつには自然と親しむということもあるので施設は今のままでよい。
- ・ 西脇市民の一部は利用しているが、大半は他市のキャンプ場を利用していることより、お互いさまの交流人口で良いのではないか。

Bについての意見

- ・ 観光資源とするなら有料にする。
- ・ 有料の場合は、利用料の徴収等、課題がある。
- ・ 教育施設として考えるなら青少年センターから所管を変更して生涯学習課にする。

Cについての意見

- ・ 観光の施設にするには水道や設備に費用がかかる。
- ・ 観光を取り入れるなら所管は商工観光課になる。
- ・ 受付の時にキャンプ場のある地区の案内図を渡して、行き帰りに買物によってもらうような広がりがあるようにするとよい。
- ・ ネット予約の時に地域のPRをしてはどうか。

#### (5) 他市のキャンプ場利用状況

西脇市のキャンプ場と同様のキャンプ場として4月19日に小野市鴨池公園キャンプ場を視察する計画を立てたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、他市への視察は中止とし、下記のキャンプ場の利用状況の資料を入手した。

<委員会で協議>

- ・ 小野市鴨池公園キャンプ場・令和2年度(4月~10月)の利用者は634人、うち市内利用者は224人、市外利用者は410人(11月~3月までは野鳥の飛来時期で休園)。

(市民利用率: 35.3%)

- ・加西市古法華自然公園キャンプ場・・30張が張れる広さがある。令和2年度は市内利用者 315人に対し市外からの利用者が15,500人。バーベキューサイトもあり、そちらの利用も多い。（市民利用率：1.99%）

\* 2カ所ともに市外からの利用者が圧倒的に多くなっており、西脇市と同様である。

## 6 委員の評価

事務事業評価表は別紙添付

## 7 評価について委員の意見

### (1) 妥当性について

アウトドア志向がコロナ禍で加速し、市民利用は少ないが市外からの利用者数が年々増加している。無料で利用でき結果として交流人口の増加に寄与しており妥当な事業である。

### (2) 有効性について

当初、青少年の健全育成のための野外活動施設であったが、昨今は大人主体の施設となっている。当初の事業目的とは異なるが、利用者数の増加や、キャンプ場整備が里山の環境維持にもつながり有効な事業である。

### (3) 効率性について

最小限の予算・人員で運営されており、整備にも地元住民の協力を得て効率よく運営されている事業である。

### (総合評価)

この事業は、青少年の健全育成のための野外活動施設としてその役割を果たしてきた。昨今はファミリーや大人のキャンプ場として活用されている。無料で利用でき、大半が市外在住者の利用で、近年増加傾向が続き西脇市の魅力の一つとなっている。結果的に交流人口の増加にも寄与しており、委員会として妥当性・効率性においては高い評価となった。

## 8 委員会の結論

総合評価の通り、この事業は現状のまま継続すべき事業とする。

委員より、当初の目的である青少年の健全育成のための施設の役割を終え、現在は一般のキャンプ利用となり目的が変わった。よって所管部署が現在のままで妥当なのかを協議した。またキャンプ場利用者の市内消費に繋がる取組や、観光資源としての活用を考えて

はとの意見があり協議をしたが、委員会の結論は、4カ所ともに個性があり少ない事業費で効率的に運営され現状でも利用者が増加していることを踏まえ「現状のまま継続すべき」とする。

以 上

別紙（事務事業評価表）

議会による事務事業評価（議員）			
評価対象事業名	野外活動施設維持管理事業（キャンプ場）		
所管常任委員会	文教民生常任委員会	評価者	
基本政策	第1章 未来を拓く次世代が育まれるまち		
政策	教育を支える環境を整える		
施策	家庭や地域と連携します		

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容				
		理由（該当する項目を三段階で評価）				
		(○) 良好・すべき (△) どちらともいえない (×) 不良・すべきでない				
			○	△	×	
妥当性	4	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	7			
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	6	1		
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	7			
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか	6	1		
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か	3	4		
		カ) 市民全員のためになっているか		4	3	
有効性	3	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか	6	1		
		イ) 事業目標が達成できているか		3	4	
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか		2	5	
		エ) 目標が低く設定されていないか	-	-	-	
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか	-	-	-	
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか	7			
効率性	4	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か	6	1		
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か	5	2		
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか		2	5	
		エ) 事業に投入された人員は適切か	6	1		
		オ) 事業の合理化は図られているか	5	2		
		カ) 受益者負担等は適切か	6	1		
総合評価	4					

今後の方向性	拡充	評価指標	
※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載	○ 現状のまま継続すべき	5	極めて高い
	見直しのうえ継続すべき	4	高い
	事業単位を見直し (統廃合・縮小のうえ継続)	3	普通
	廃止	2	低い
		1	極めて低い